

2022年度

不二サッシグループ 決算説明資料

2023年5月11日

不二サッシ株式会社

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

I. 2022年度 決算の概要

2022年度における事業環境

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
非木造建築物着工床面積(万㎡)	7,010	6,453	6,967	6,996
前年比(伸び率)	-6.7%	-7.9%	8.0%	0.4%
新設住宅着工戸数(万戸)	88.4	81.2	86.6	86.1
前年比(伸び率)	-7.2%	-8.1%	6.7%	-0.6%

※実績は国土交通省 建築着工統計調査より

■ 非木造建築物着工床面積

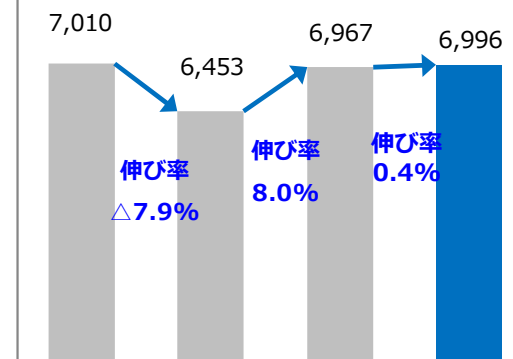
2022年度については事務所は減少したものの、工場が増加し、全体では前年比で微増となった。

■ 新設住宅着工戸数

持家は大幅に減少したものの、マンション・貸家を中心に増加し、全体では前年比で微減となった。

非木造建築物着工床面積(4-3月)

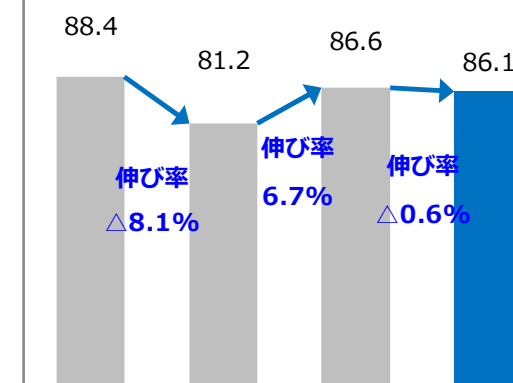
(万㎡)



2019年度 2020年度 2021年度 2022年度

新設住宅着工戸数(4-3月)

(万戸)



2019年度 2020年度 2021年度 2022年度

2022年度 決算の業績について

【連結】

(百万円)

	2021年度		2022年度						
	実績		実績		前年同期比		公表数字	公表比	
		売上比		売上比	増減額	%		増減額	%
売上高	90,430		101,700		11,270	112.5	99,000	2,700	102.7
営業利益	885	1.0	735	0.7	△149	83.1	-300	1,035	-
経常利益	1,101	1.2	960	0.9	△141	87.2	-230	1,190	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-3,326	-3.7	338	0.3	3,665	-	-400	738	-

- かつてないアルミ地金、諸資材、エネルギー価格高騰の影響を受け、通期連結業績予想の下方修正を行った。営業強化、価格改定、製造減価低減をはじめとした収益改善策に努め、公表数字を大幅に上回るも、価格高騰の影響を吸収しきれずに前年対比では増収減益となった。

セグメント別 売上高・営業利益

【連結】

(百万円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 実績	2022年度		2021年度 実績	2022年度	
		実績	対前年比		実績	対前年比
建 材 事 業	65,097	75,178	115.5%	2,077	2,037	98.1%
			10,080			△ 39
形 材 外 販 事 業	20,045	21,189	105.7%	-597	-566	-
			1,143			30
環 境 事 業	2,809	2,651	94.4%	280	211	75.3%
			△ 158			△ 69
物 流 事 業	2,222	2,418	108.8%	373	340	91.3%
			195			△ 32
そ の 他 事 業	254	262	103.3%	116	140	120.1%
			8			23
(消去又は全社)	-	-	-	(1,364)	(1,427)	△ 62
合 計	90,430	101,700	112.5%	885	735	83.1%
			11,270			△ 149

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用しております。

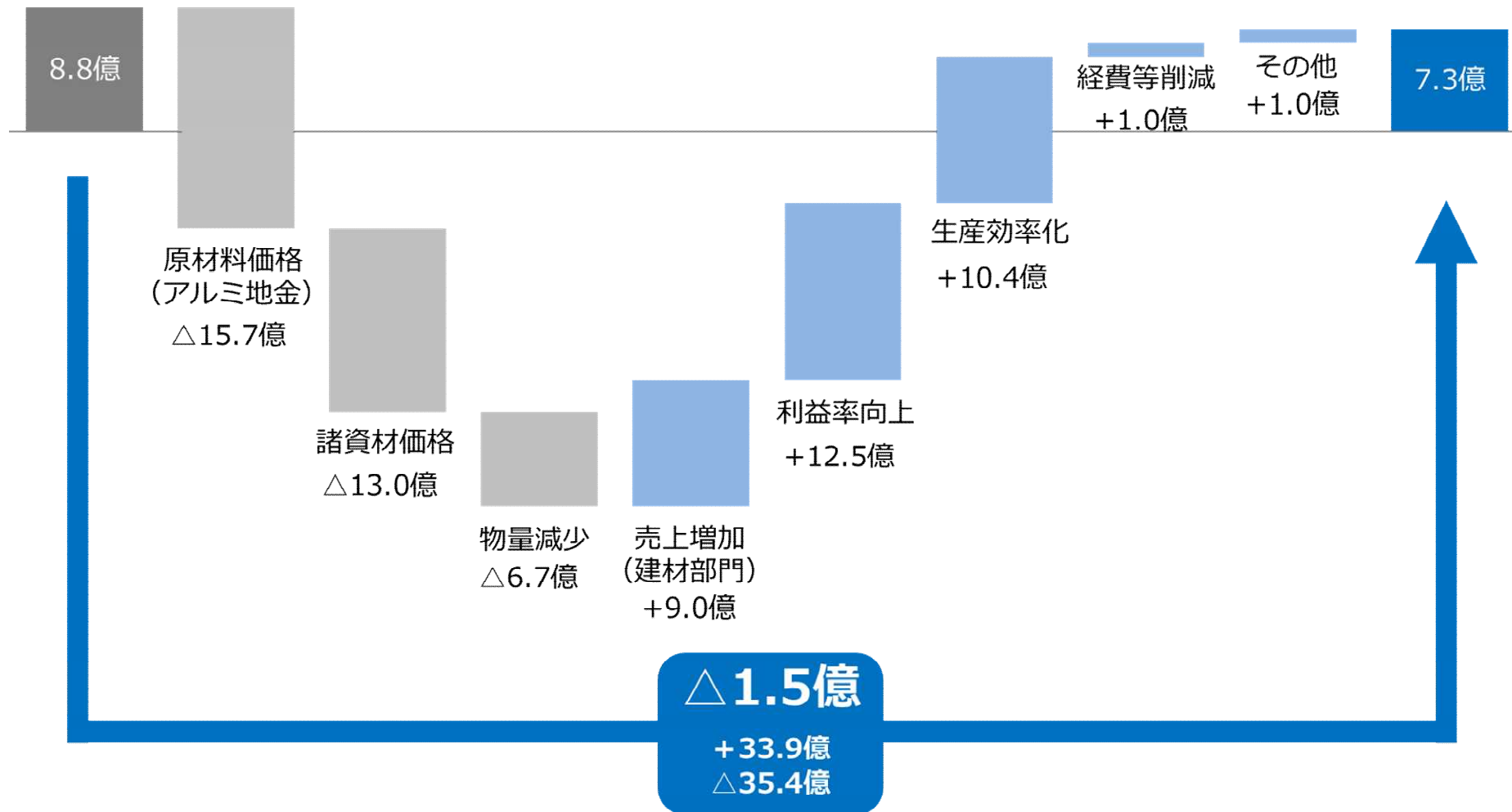
営業利益増減分析（前年比・要因別）

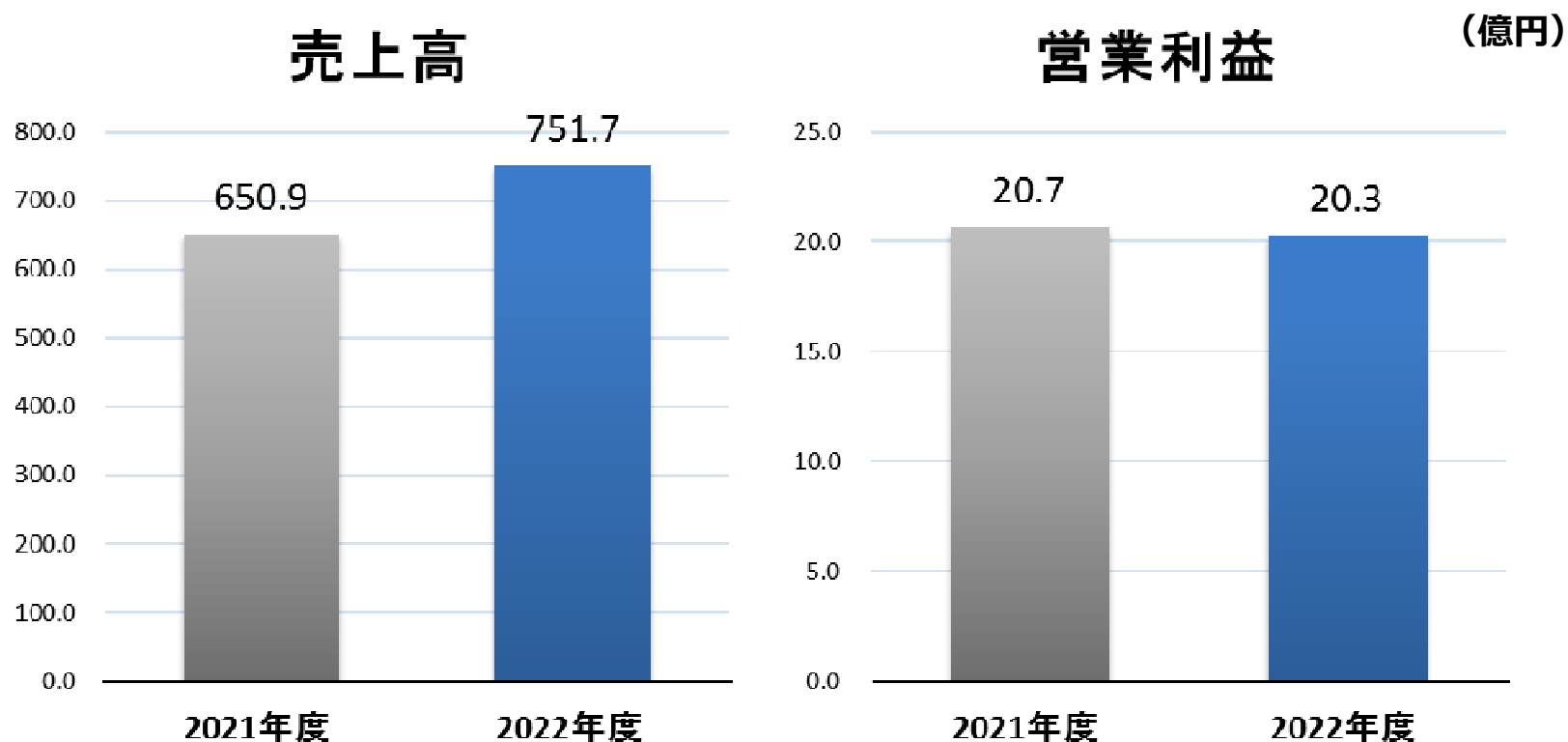
2021年度

2022年度

通期

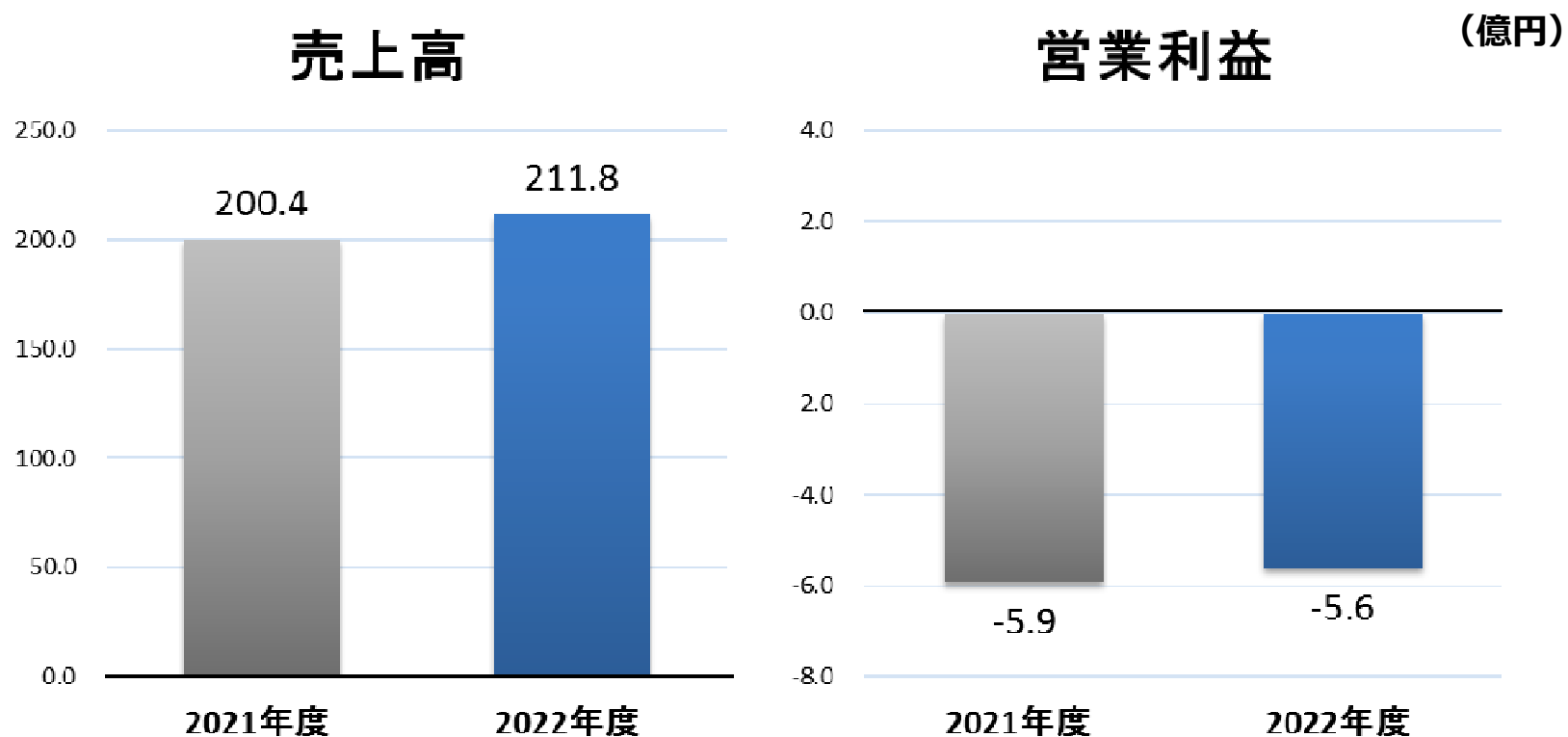
通期





■ 売上高・営業利益

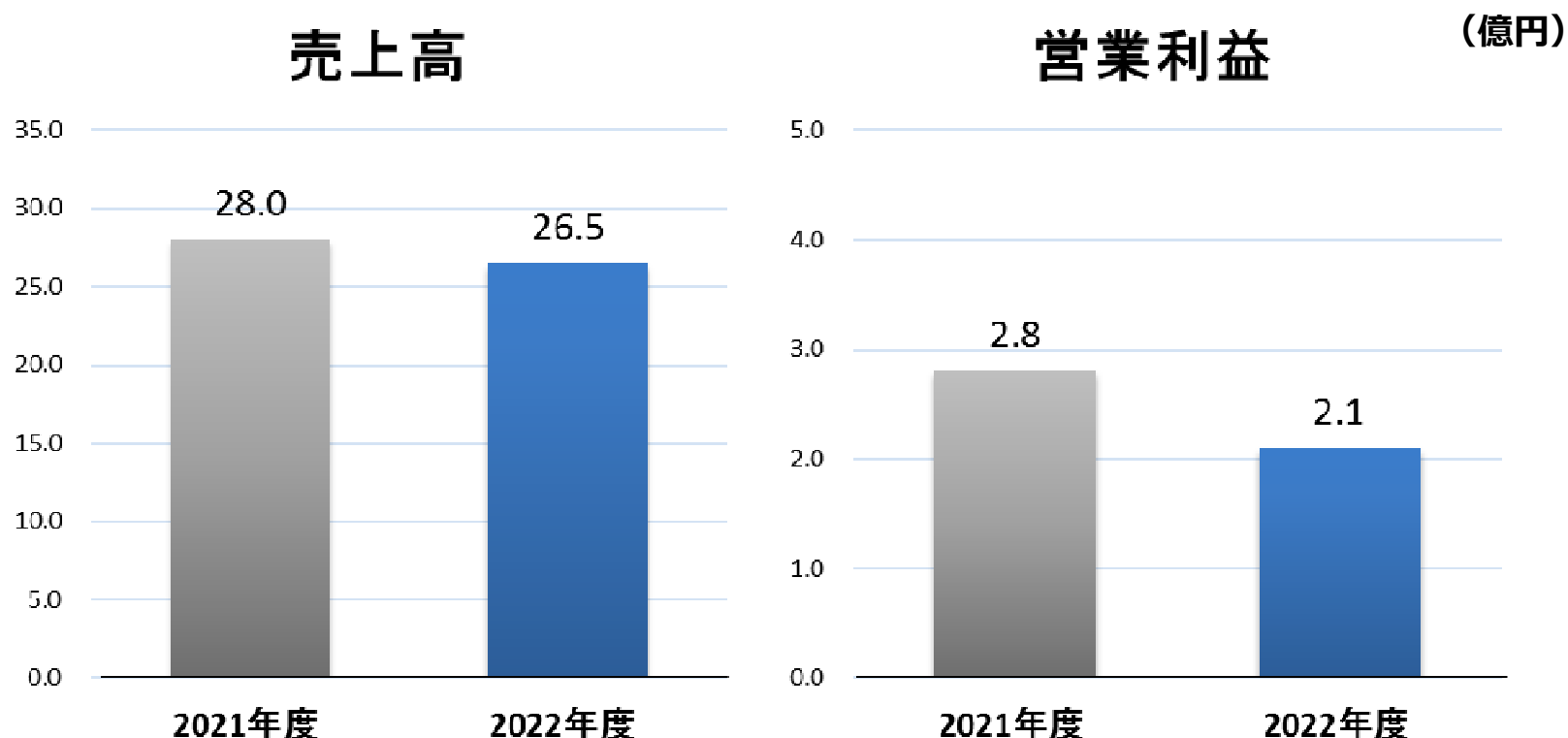
ビル新築事業は営業強化により売上は増加したものの、地金・諸資材価格の高騰の影響を製造原価低減などの収益改善策で吸収しきれず減益。一方、リニューアル事業は上期に引き続き売上・利益共に好調に推移し、前年を大幅に上回る。建材事業全体では増収し利益は横ばい。



■ 売上高・営業利益

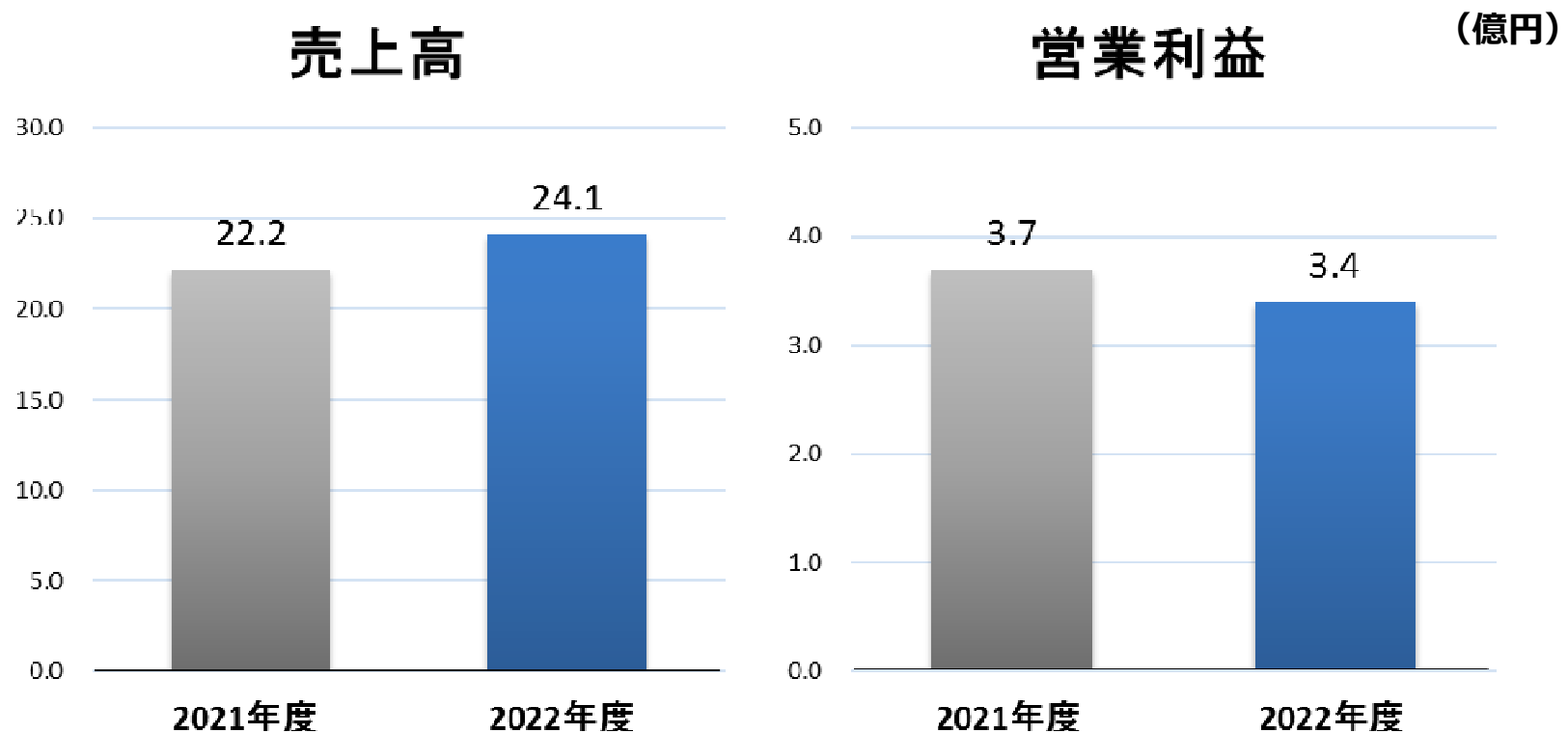
アルミ地金市況に連動した販売単価の上昇により売上は増加。

利益面では生産体制見直し等の収益改善に取り組むも、諸資材価格高騰分の価格転嫁許容が広まらず、更には販売物量も低下し、営業利益は大幅な赤字。



■ 売上高・営業利益

プラント部門では前年度特需案件の完了、半導体不足等による電気品の納期遅延影響で一部メンテナンスの見送り、薬剤部門では原材料の価格高騰の継続等厳しい環境にあったが、プロセス管理の徹底等の営業強化により売上・利益共に微減。



■ 売上高・営業利益

荷動きの低迷、燃料費、諸資材等の高騰を受けるもSDGs 関連（EV・リチウムイオン電池・ソーラーパネル等）や半導体等の業界からの受注拡大、鉄道・船を利用した複合輸送の推進、営業倉庫においてはスポット案件受注、保管効率・作業効率向上の取り組みにより増収し利益は前年並みを確保。

連結貸借対照表要旨



(百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	前期末比
現金及び預金	14,523	14,769	246
売上債権	26,759	28,038	1,279
たな卸し資産	7,478	7,997	519
貸倒引当金	-701	-712	△ 10
その他	1,368	1,695	327
流動資産計	49,426	51,789	2,362
建物及び構築物	7,220	6,892	△ 328
土地	13,328	13,330	1
その他有形固定資産	4,826	6,205	1,379
投資有価証券	2,865	3,108	242
貸倒引当金	-877	-860	17
その他固定資産	6,524	6,783	275
固定資産計	33,888	35,459	1,570
資産計	83,315	87,249	3,933

	2022年 3月末	2023年 3月末	前期末比
仕入債務	20,274	21,083	808
短期借入金・社債	13,356	14,851	1,494
その他流動負債	5,353	5,873	519
長期借入金・社債	9,111	9,694	583
その他固定負債	17,154	17,117	△ 37
負債計	65,250	68,618	3,368
株主資本	16,210	16,423	212
その他の包括利益累計額	1,678	2,014	335
非支配株主持分	175	193	17
純資産計	18,065	18,630	565
負債・純資産計	83,315	87,249	3,933

(百万円)

	2022年3月末	2023年3月末	前期末比
利益剰余金	13,694	13,907	212
自己資本	17,889	18,437	547
自己資本比率 (%)	21.5	21.1	△0.3
有利子負債	22,786	24,813	2,027
1株あたり純資産 (円)	141.77	146.11	4.34
R O E (%)	-17.0	1.9	18.9
E P S (円)	-26.36	2.68	29.04
期末配当 (円)	1.0	1.0(予定)	-

	2022年3月末	2023年3月末	前年同期比
税金等調整前当期純利益	-2,606	467	3,073
営業活動によるキャッシュ・フロー	442	1,548	1,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,506	-3,219	△1,712
財務活動によるキャッシュ・フロー	-1,269	1,598	2,868
現金及び現金同等物の期末残高	13,560	13,523	△36

受注状況・設備投資他

受注高・受注残高の推移（ビル建材）

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年同期比
受注高	53,883	53,980	61,219	59,639	△1,580
受注残高	54,263	53,698	59,094	63,745	4,650

設備投資及び減価償却費の推移

(百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
設備投資額	2,508	2,946	2,224	1,787	3,765
研究開発費	1,677	1,732	1,505	1,303	1,312
減価償却費	2,215	2,206	2,293	2,203	1,895

従業員の推移

(人)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
従業員数	3,002	3,078	3,055	2,970	2,887
増 減	+54	+76	△23	△85	△83

Ⅱ. 2023年度の業績予想

2023年度 連結通期業績予想について

【連結】

(百万円)

	2022年度		2023年度			
	実績		予想		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	101,700		102,000		299	100.3
営業利益	735	0.7	1,000	1.0	264	135.9
経常利益	960	0.9	880	0.9	△80	91.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	338	0.3	940	0.9	601	277.7

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用しております。

- アルミ地金、諸資材価格高騰の影響は残るものの、建材事業の価格改定の浸透、期首手持ち工事の増加、形材外販事業の収益改善等により、増収増益を見込んでおります。

Ⅲ. トピックス

「アルミカーテンウォール内蔵型センサー・アラートシステム」 の研究・開発に参画

2023年1月27日

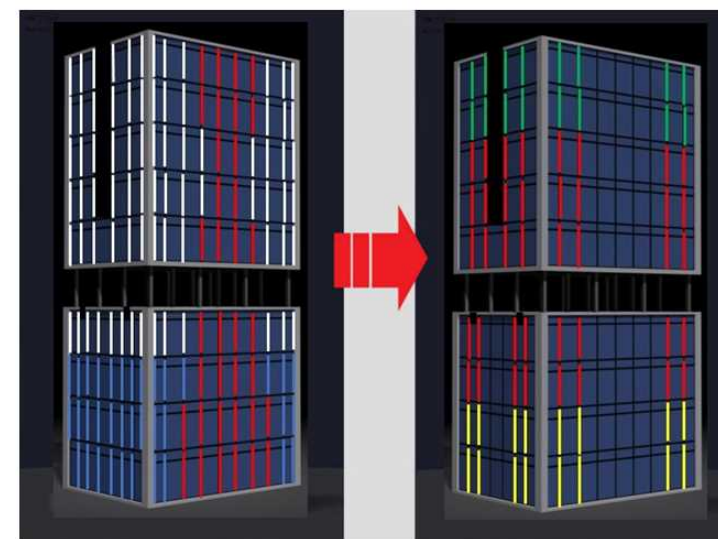
アルミカーテンウォール内蔵型
センサー・アラートシステム

当社は、産官学が連携して推し進める「アルミカーテンウォール内蔵型センサー・アラートシステム」の研究・開発に参画しています。このシステムは、地震時に建物の被災状況を、LED内蔵のカーテンウォールが発光表示することによって可視化するものです。

2023年2月17日、兵庫耐震工学研究センターにおいて実際のオフィスビルを再現した試験体に同システムを実装し、震度7クラスの地震波を加振する公開実験を行いました。
これらの実験を通じて、社会実装への推進を図ってまいります。

【参画機関・企業】

国立研究開発法人防災科学技術研究所・名古屋大学・文化シャッター(株)



LED照明(平常時)

LED照明(地震時)

平常時は建物ファサードとしての機能を持ち、地震時は建物の被災状況を見える化して周囲に知らせるアラート機能を備える。

サステナビリティ推進室を設置

2023年5月1日

近年、企業の継続的な成長と持続可能な地球環境・社会を同時に目指すサステナブル経営の重要性がますます高まっています。

当社グループでも現中期経営計画において、『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループへ』をメインメッセージと位置づけサステナブル経営に取り組んでおり、環境問題やSDGs／ESGを含むサステナビリティに関わる取り組みをさらに推進・強化するため、サステナビリティ推進室を設置いたしました。

【主な活動内容】

- (1) サステナブルな社会の実現に向けた企業戦略の策定・実行
- (2) ESGに関わる活動の企画及び関連部門の支援
- (3) サステナビリティ情報開示及び企業価値向上施策の推進

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ
